平成28年度　清瀬市立清瀬第二中学校　学校評価表

学校教育目標　**健康**　よりたくましく　心身をきたえる　　**愛情**　より豊かな　心をつちかう　　**学力**　より深く　自らまなぶ　　**勤労**　よりよくはたらき　責任をはたす

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　1　確かな学力を身に付けることができる学校　2　思いやりのある豊かな心が育まれ、安心して活動できる学校　3　心身ともに健康で、たくましく生きる力が育まれる学校　4　社会に進んで貢献できる生徒が育つ学校

【目指す児童・生徒像】　1　自ら進んで取り組む生徒　2　人間性豊かな生徒　3　心身ともに健康な生徒　4　自己実現を目指す生徒

【目指す教師像】　1　向上心をもち、研究と努力を惜しまない教師　2　強い信念、勇気をもち自ら範となり伝えることができる教師　3　誇りをもち　職責を果たす教師

前年度までの学校経営上の成果と課題

1. 職層に応じた役割を明確にし、校内体制を整備し、組織的計画的なOJTにより教職員の資質向上に繋げる。
2. 基本的な生活習慣の確立と並行し、学力向上を本校の第二ステージとする。そのために生徒が自ら考え行動できる自主自律的活動を育成する。

柱	具体的方策	自己評価 評価 努力目標	自己評価 評価 成果目標	自己評価 課題と次年度以降の対策	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント
確かな学力の向上	二中スタンダードに沿った授業研究や特別支援教育の研修を計画的に行い、授業規律の確立と授業力を高める。	4	4	二中スタンダードに基づいた授業を実施し、研究授業も行った。これで終わりにすることなく始まりととらえ、継続、徹底していくことが「どの子にも分かる授業づくり」に繋がっていく。授業規律に関しては、各教科徹底しており落ち着いた授業が全クラスで行われている。これを持続発展させるためには教員の授業力を高めることである。	4	「分かる授業」づくりに向けて二中スタンダードの活用は、それなりの成果はあった。研究授業に頼らずに日々の授業で学力向上につながる授業を行っていくことが大切である。
	漢字検定、数学検定、英語検定などを年3回実施し、能力の伸長と学習意欲を向上させる。	3	2	各検定試験（漢字・英語・数学）への受検者が増え、意欲や興味関心が高まった。しかし、3級以上の合格者は変わらず低い。検定試験の結果が高い数値となるには、日頃の授業、家庭学習、放課後の補習などの工夫が必要である。	2	3級以上の合格率を高めるには、そのための手立てが必要である。特に、習熟度別授業による基礎・基本の習得や応用力の向上にも力を入れていく必要がある。
豊かな心の育成	1年生、2年生で職場体験（3日間）を実施する。また、年間指導計画や各学年のねらいに応じた外部人材を活用してのキャリア教育を実施する。	4	4	職場体験によって、社会のルール等について深く学ぶことができ、望ましい職業観や勤労観を身に付けることができ、同時に自分の生き方を考える良い機会となっている。事前指導に外部人材を活用し、事後学習に壁新聞の作成や発表を行うことにより様々な職業にについて知識を深化させることができた。今後は学年に応じたねらいを明確にするとともに職場体験以外にも系統的な取組が必要である。	4	職場体験を行った各事業所での様子から、望ましい勤労観や社会性が確実に育っていることを感じた。その姿勢が地域の学校評価を高めている。
	挨拶プラス一言運動の徹底、アンケート・スクールカウンセラーによる面接や定期的に相談週間を設け、実態を適切に把握し、問題の未然防止に繋げる。	4	3	挨拶プラス一言運動は生徒会が中心となり全校で取り組むことができた。また六小とも連携して行った。継続的に今後も行うとともに、気持ちの良い挨拶ができる生徒に育てたい。そのためには教員が率先して行うことも必要である。相談週間、スクールカウンセラーによる面談、アンケート、Q-Uテストなど計画的に実施した。しかし、生徒の内面を的確に知り、適切な指導を行っていくためにはQ-Uテストの組織的な活用、相談週間やアンケートの見直しと工夫が必要である。	3	個に応じた対応を日々行っているが、不登校の生徒数が減少となっていない。Q－Uテストの組織的な活用や相談週間の見直し・工夫など、取組に対する校内整備が課題である。
健やかな体の育成	部活動では、技術向上に繋がる外部指導員の活用をする。部活動、地域クラブへの参加により運動習慣と体力向上を図る。	4	4	運動部52％、文化部21％、全体で73％の生徒が部に所属している。所属をしていない生徒の約9割は地域のクラブチームに所属している。人数に対して活動場所、時間をいかに確保するかが課題である。今後は、外部指導員の有効な活用と地域との連携を密にしていくことが必要である。	4	生徒数の割に部活動の数が少ない分、地域で活動（野球・サッカー・ダンスなど）している生徒も増えてきている。部活動の外部指導員の数も増やせるとさらに活性化する。
	個に応じたTTの授業、部活動などで持久走の自主練習を取り入れ、100％のマラソン大会参加率を目指す。	3	4	マラソン大会への参加率は、病気やケガによる欠場を除けば100％近い数値である。授業や部活動などの練習前にランニングを行っていることにより走ることへの抵抗は無くなった。しかしながら、体力テストでは依然として持久力が低いのが課題である。今後は、自己運動能力向上への意識を高めるために個に応じた指導の徹底が必要である。	4	マラソン大会は、体と精神面を育成する上で、今後も継続が望ましい。コースが学校周辺のため安全面で問題はあるが、その点は改善していく必要がある。
本校の特色①	学力調査の結果に基づき、指導改善と生徒の主体的な学びにつながる授業研究を年2回以上実施する。	4	3	校内での研究授業以外に小中での研究授業が年2回行われ、授業力向上への意識は確実に高まった。しかしながら、学力調査の結果数値に表れるには至っていない。来年度から「ライフスキル教育」を取り入れ、また指導主事による年3回の授業指導をうけることにより、授業力向上を目指す。	3	来年度の新たな取組で、授業改善へ大きく影響してくることを期待する。取組だけで終わるのではなく課題となっている学力向上に結び付けることが大切である。
	教科、道徳、行事のねらいに応じた外部人材を活用し、目標達成や生徒の変容に繋げる。また、国際理解教育を各学年で実施する。	3	4	各ねらいに応じた外部人材を活用し、生徒の変容から目的はほぼ達成できた。しかし、外部人材活用後、指導内容が途切れてしまうことが課題として残った。事前・事後指導を組み込むことで、内容理解の深化、実践力を高めていく必要がある。またマンネリ化しないよう発展させていくことである。	4	外部人材の活用は、計画通りできている。様々な職種の人材をねらいに応じて活用するには、時間と労力が必要であるが、教育的効果は充分にある。
本校の特色②	生徒会活動や各専門員会の活動内容を明確にし、活性化に繋げる取組を実施する。	4	4	生徒会活動は、スマイル挨拶運動、クリーン運動（全校取組）、ベルマーク収集など内容が充実し活性化した。生徒会朝礼でも専門委員会の活動が委員長からの報告という形で動き出した。中央委員会も活性化してきた。今後学期に1回新たな取組が必要である。	4	校内外であいさつは、よくできていると感じている。あいさつは、生徒だけでなく保護者・地域と共に取り組んでいくと良い。
	年間2回の街頭募金活動や地域の活動に積極的に参加させることにより、多方面に目を向けさせ、ボランティア精神を高める。	4	4	昨年度よりもボランティア活動に関する興味関心は高まり、参加率も高まった。事前に勉強会を開いたことによりボランティアに対する理解も深まった。確実に本校の伝統になっている。今後は、マンネリ化しないよう実施内容の工夫が必要である。	4	募金活動は、伝統となっているが、形を変えながら実施すると良い。全体的にボランティア精神が高まってきたように思う。それが学校以外でもよく見られる。